

# 市議団ニュース

1769

2015.09.20

日本共産党

根室市議団

宝林町 4-203

TEL 23-6023

FAX 24-1684

## 橋本議員、鈴木議員、神議員が一般質問

十五日（火）から九月定例会月議会が開催されました。初日の十五日には一般質問に五人の議員が登壇し、共産党議員団は三人の各議員が二番目、三番目、五番目に質問を行いました。各議員の質問要旨をお知らせします。

### 橋本竜一議員

#### 子どもたちの放課後教室・指導員等の増員を

橋本議員は、放課後教室の指導員の増員、施設の改善などの問題について教育委員会の考え方を質問しました。同議員は、子どもたちの利用が最も多くなる時には、北斗小の場合七七人になるなど他の花咲小、成央小でも七人を超えている実態となっていると指摘。これに対して職員数は、北斗小の場合で5人の指導員で対応しており、さらにその中で特別に支援が必要な子どもたちが五人通所しており、この子どもたちの指導員は、専属ではなく、一人の特

別支援の指導員が花咲小、成央小等を掛け持ちの指導員では、十分な指導ができないのではないかとその改善を求めました。

しかも、市全体の放課後教室全体の指導員の内、長年の指導経験のある指導員が二人が退職、歯舞の児童館でも二人退職者の内一人しか補充できないなどの指導員不足が常態化している実態を指摘し、早急な改善・人員の確保を求めました。

教育長は、一年以上の経験を持つ指導員が全体の半分はいるが、指導員が不足している点を認め、ハローワーク等への募集を行なっているが応募者がなく人員確保ができないでいる実態を説

### 鈴木一彦議員

#### 子どもの貧困「六人一人が」

鈴木議員は、子どもの貧困が日本全体で、過去最悪の六人に一人の割合にもなっていると、根室市の実態把握の必要性とその対策のあり方について行政の対応を求めました。同議員は、2013年「子どももの貧困対策法」が成立し、内閣の政策大綱が示されているが実効性に乏しく、その改善・充実の声が上がっていると指摘しました。さらに、実態把握には、市行政として一つの部署での対応は困難であることから全庁の「横断的なプロジェクト」の必要性を訴えました。市長は、「プロジェクトチーム」による実態の把握について「調査・研究の必要性」を認めました。また、同議員は学校現場の実態について触れて、「現場で、貧困問題に対応するソーシャルワーカーの配置が必要」と訴えました。教育長は「マンパワーの必要性を感じて

と答弁しました。

ら、道教委とも協議して市への配置について協議したい」と答えました。

同議員は、高校問題についても質問。これまで二つの高校でそれぞれ特色ある教育が実践されてきた点を評価。高校が一つになった場合もこれらが引き継がれよう要求しました。

特に、学力の遅れている子どもたちへの対応は、優れた教育実践であったとし、教育長の見解求めました。教育長は「その様な実践が継承されるよう『統合検討協議会』等で協議したい」と答弁しました。

### 神 忠志議員

#### サケ・マス問題で緊急な対応は？

神議員は、サケ・マス問題について様々な角度から質問しました。特に、急を要する問題として運輸業界等の運転資金問題に触れ国の「超長期の無利子融資」の必要性を強く要求しました。 〇二百

海里内での「試験操業」の政府の「下交渉」を国として急いで実施することを

要求するべきと求めました。 国の補正予算等へ反映させるためには、「ホタテの試験操業」等への予算化を急ぐべきと強く迫りました。さらに同議員は、代替え漁業をやる上で、大学や研究所等の「プロジェクト」の支援の必要性を訴えました。これに対して、長谷川市長は「根室の立ち位置を強く主張している。国はベニザケの試験研究に向きで、二つの大学がこの研究に関心をもっている。代替え漁業等で大学等の知見が必要だと考えている」と答弁しました。

同議員は最近の「異常気象現象問題」と防災・減災対策を質問。この異常気象現象が度々発生する状況となっていることから、行政の対応が大きく遅れている点を指摘。国の制度改正・改善の必要性を強く国に求めるべきとしました。国土交通省がこの五月制度改正でこれらに対応する方針を出していることを述べ、今夏の豪雨による中心商店街の被害に触れて、浸水対策計画の策定とその対応を理事者自らが商店街に説明するよう要求しました。